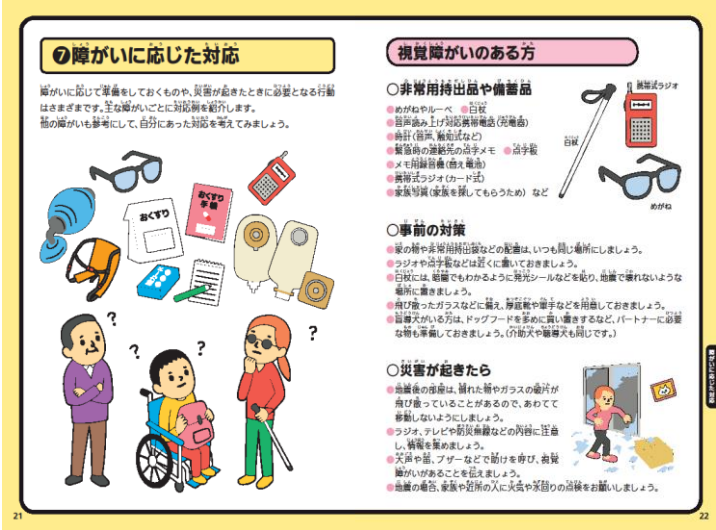


15 障がい者災害対応のてびき

県では、平成30年7月の西日本豪雨災害を教訓に、自然災害や南海トラフ地震等に備えるため、障がいのある方やそのご家族向けに、「障がい者災害対応のてびき」を作成しました。この「てびき」は、災害時において、障がいのある方々が、大切な命を守るための日頃の備えや避難所での生活など、「自助」を中心に紹介していますので、ご自身やご家族に必要な備えを整えてください。

「てびき」は、県障がい福祉課やお住まいの市町の窓口で配布しており、愛媛県ホームページでも公開しています。

アドレス：<https://www.pref.ehime.jp/site/bousai/18125.html>



7 障がいに応じた対応

障がいに応じて準備しておくものや、災害が起きたときに避難となる行動はさまざまです。主な障がいごとに対応策を紹介します。他の障がいも参考にして、自分にあった対応を考えてみましょう。

視覚障がいのある方

○非常用持出品や備蓄品

- めがねやルーペ
- 盲杖
- 音声読み上げ対応携帯電話（充電器）
- 時計（音響、振動式など）
- 点字版
- 緊急時の連絡先の点字メモ
- メモ用紙（点字）
- 携帯式ラジオ（カード式）
- 家族写真（家族を照らしてもらうため）など

○事前の対策

- 家の鍵や非常用持出品などの配置は、いつも同じ場所にしましょう。
- ラジオや点字版などは近くに置いておきましょう。
- 白杖には、避難でもわかるように発光シールなどを貼り、地震で壊れないような場所に置きましょう。
- 飛び出したガラスなどに触れ、厚紙や傘などを持参しておきましょう。
- 盲導犬がいる方は、ドッグフードを事前に預け置きするなど、パートナーに避難の物も準備しておきましょう。（介助犬や聴導犬も同じです。）

○災害が起きたら

- 地震後の建物は、壊れた柱やガラスの破片が飛び出ていることがあるので、あわてて移動しないようにしましょう。
- ラジオ、テレビや防災無線などの受信に注意し、情報を取らしましょう。
- 犬や猫、フザーなどで助けを呼び、視覚障がいがあることを伝えましょう。
- 地震の報告、家族や近所の人に火災や緊迫の連絡をお願いしましょう。

目次

- ① てびきの使い方
- ② 災害を知る
- ③ 日ごろの備え
- ④ ヘルプカードの作成
- ⑤ 地震が起きたら
- ⑥ 避難所
- ⑦ 障がいに応じた対応
- ⑧ 関連情報
- ⑨ 私の避難計画

（てびきの一場面）障がいに応じた対応 （A4サイズ、34ページ）

